



埋文だより

第62号

平成25年10月23日発行



ふしぎな埋め方

15本の打製石器集積遺構

(公財)埋蔵文化財調査センターが実施している町田堀遺跡(鹿屋市串良町)の発掘調査で、打製石器集積遺構と埋設土器が見つかりました。縄文時代後期後半(約3,000年前)のもので、

扁平な打製石器(土掘り具?)が、15本重なって検出されました。何のために、重ねて埋めたのか不明です。また、意図的に埋めてある深鉢形土器を4か所で発見しました。子どもの墓ではないかと言われてはいますが、他の用途も考えられます。今後の調査で明らかにしていきます。

目次

- ・ 不思議な埋め方 町田堀遺跡 1
- ・ 発掘速報! 2・3
- ・ ふれる・感じる・体験する~考古学の世界~
フレッシュ研修・パワーアップ研修、文化財研修講座、
埋蔵文化財専門職員養成講座(中級・初級) 4
- ・ 発掘現場によろこそ!、職場体験学習・職場見学、
縄文の森不思議探検 5
- ・ 第37回企画展、かごしま遺跡フォーラム2013 6



埋設土器

発掘速報！

県立埋蔵文化財センターでは、今年度も県内各地で発掘調査を行っています。そして、それぞれの遺跡でたくさんの成果があがっています。ここでは、その中から4つの遺跡の最新の状況を紹介します。

長期にわたる人々の生活（中津野遺跡：南さつま市金峰町）



掘立柱建物跡

中津野遺跡は、縄文時代後期（約4,000年前）から近世（約300年前）に至るまでの人々の生活の跡がみられる遺跡です。

今年度の発掘調査で、近世のものと考えられる掘立柱建物跡、カマド跡、溝跡が発見されました。料理の施設であるカマドを囲むように掘立柱建物が作られており、当時の調理用の建物だと考えられます。その南側には一回り大きな建物跡があり、母屋だったのかもしれませんが。

縄文時代は狩り場！？（加治木堀遺跡：曾於郡大崎町）

加治木堀遺跡では、縄文時代早期（約8,000年前）の層から石鏃（せきぞく：石の矢じり）、中期（約4,800年前）の層からは落とし穴と考えられる遺構が見つかりました。

さらに、その上の弥生時代（約2,100年前）の層からは、住居の跡が一軒と円形周溝が二基見つかりました。以上の調査結果から、周辺は縄文時代までは狩猟の場で、弥生時代に入ってから人が住むようになったのではないかと考えられます。



落とし穴

土坑の中から...（高付遺跡：南九州市川辺町）



割れた土器が見つかった土坑

高付遺跡は、川辺道路の川辺インターからおりてすぐの所にあります。遺跡から、縄文時代後期（約4,000年前）と考えられる土坑が6基検出されました。

そのうち1基から、この地方によく見られる指宿式土器が割れた状態で出土しました。どのような意図で埋められたものなのか、今後検証していく予定です。

縄文時代の営み（見帰遺跡：志布志市志布志町）

調査区を東西に横切るように溝状遺構が発見されました。縄文時代後晩期（約3,200～3,000年前）のものと考えられますが、底部の幅約2m、深さ約50cm、長さ約15mで、西から東に向けて緩やかに低くなっています。道跡の可能性もあります。

また、縄文時代中期（約4,800年前）の落とし穴状遺構が2基発見されています。当時この場所は狩り場だったと思われます。



東西に横切る溝状遺構

今年度設立された（公財）埋蔵文化財調査センターでも、県内各地で発掘調査を行っています。ここでは、その中から5つの遺跡に関する最新の成果と状況を紹介します。

集石発見！3つのパターン

（田原迫ノ上遺跡：鹿屋市串良町）



集石遺構

今年度すでに45基の集石遺構が発見され、大きく3パターンに分けることができます。

石がまばらなタイプ

密集するタイプ 掘り込みのあるタイプです。中には、縄文時代早期中頃（約8,000年前）の土器片が入っている集石もありました。20m四方の中で27基発見され、同時期に使用されていたかどうかは不明ですが、今後の調査で時期や性格が明らかになっていくのが楽しみです。

何のために？大型土坑

（天神段遺跡：曾於郡大崎町）



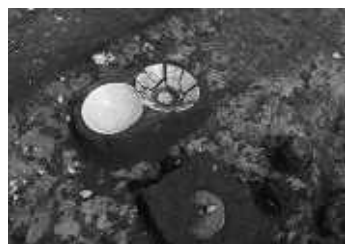
大型土坑

古代（約1,000年前）の住居跡やピット群と隣り合うようにして、三日月状に掘られた全長7mを超える大型土坑を発見しました。

中央付近の幅は約2m、深さは1m以上もあり、何回かに分けて掘られていました。土坑内から、古代の土師器の壺や甕、長さ約60cmの炭化材や大量の炭などが見つかり、底には水により変色した層も残っていました。何のために掘られたのか謎を解明していきます。

中世の貴婦人の墓

（永吉天神段遺跡：曾於郡大崎町）



副葬品が見られる墓

今から約850年前の墓が見つかりました。白磁2つ、羽釜のミニチュア土器が副葬され

ており、素文鏡（中国・宋の鏡）もあることから、身分の高い女性の墓の可能性がります。

周辺にも、複数の土坑や柱穴がありますので、さらなる発見があるかもしれません。

縄文・弥生時代の人々の生活

（荒園遺跡：曾於郡大崎町）



弥生時代の土器

荒園遺跡では、縄文時代早期（約8,000年前）の調査と弥生時代中期（約2,100年前）

の調査を進めています。縄文時代早期の調査では、押型文土器が出土し、弥生時代中期の調査では、竪穴住居跡が1軒見つかりました。夏休み中には、大崎町内の小学生が発掘体験を行いました。（5頁）

2軒並んだ弥生時代の竪穴住居跡（牧山遺跡：鹿屋市串良町）

弥生時代中期（約2,100年前、山ノ口式土器）の竪穴住居跡が2軒並んで発見されました。大きさはどちらも1辺が5m程で、床面よりも一段高くなった張り出しを持ち、中央に2か所の柱穴の跡と、南側（写真では左側）に貯蔵穴と考えられる大きな土坑が1か所確認できます。

屋根の構造を考えると、建立時期の差が考えられることから、すぐ隣に家を建て直した可能性があります。



隣接する竪穴住居跡

ふれる・感じる・体験する～考古学の世界～

埋蔵文化財センターや発掘現場では、児童・生徒や教員、市町村教育委員会職員、一般の方を対象に、多くの体験活動や研修を行いました。

フレッシュ研修 パワーアップ研修

新任教員対象のフレッシュ研修を8月17日・18日に、10年経験者研修の教員を対象としたパワーアップ研修を7月25日・26日と8月1日・2日の2回実施しました。学校で埋蔵文化財を授業に活用する実践報告や体験活動に参加した後、グループ討論で意見交換が行われ、埋蔵文化財の普及と啓発活動について活発な意見が出されました。実際の遺物にふれたり体験することで、驚きや感動を伴うことを実感していました。



文化財研修講座 『地域や学校で生かそう！ ふるさとの文化財』

文化財課では、ふるさとの文化財を活用してもらおうと行政関係者、教職員のみならず広く一般県民まで対象とした文化財研修講座を8月9日、8月20日の2回実施し、合計205名の参加がありました。この中で、埋蔵文化財について講義をしました。ふるさとの埋蔵文化財を学校の教科指導の中だけでなく、より身近なものとしてとらえ、そして考える機会となったようです。

参加者からの感想

今回は、土器や石器等を効果的に活用することで、子どもたちが文化財に対する興味・関心を高め、意欲的に授業やクラブ活動等へ取り組んだ実践事例の発表もあったので参考になりました。



埋蔵文化財専門職員 養成講座 中級講座 初級講座

8月8日・9日の2日間に、発掘調査や報告書作成の技術の向上を目的として、市町村の文化財専門職員を対象に埋蔵文化財専門職員養成講座中級講座を、8月22日・23日には、一般職の市町村職員を対象に初級講座を実施しました。中級講座では発掘調査の最新情報や測量技術、鉄器の保存処理や写真撮影の基礎など、より実践的な講義や実習があり活発な意見交換も行われました。両講座とも「埋蔵文化財を活用していく上で大変参考になった。」という感想が聞かれました。



発掘現場に ようこそ！

8月2日に大崎町おおさきっ子歴史探検隊の発掘体験を大崎町の荒園遺跡で行いました。また、8月6日には、霧島文化財少年団と鹿屋市文化財ウォッチングの発掘体験を大崎町の永吉天神段遺跡と鹿屋市の田原迫ノ上遺跡でそれぞれ実施しました。土器を掘りあてた時の喜びや、暑い中での作業の大変さを感じていたようです。



発掘現場では、地層観察や発掘作業の手伝いなど、いろいろな体験活動ができます。学校やお住まいの近くに発掘現場がないか、県立埋蔵文化財センターまでお問い合わせください。(6頁を参照下さい。)

職場体験学習 職場見学

5月16日に志布志市立志布志中学校の生徒が、7月5日には県立申良商業高校の生徒が職場体験学習を行いました。各々1日ずつでしたが、実際の発掘現場で測量や発掘の体験をしました。今回の経験が生徒たちの将来に生かされることを期待します。



8月23日は、職員の子供が職場見学を行いました。ふだんにしない親の職場を見学したり、仕事の手伝いも体験し、楽しさとおもしろさを実感していました。

今後は、10月下旬に霧島市立国分南中学校の生徒が3日間の職場体験学習を行う予定です。

縄文の森 不思議探検！ 縄文人が使った石器

7月30日に、縄文の森不思議探検！第2回「縄文人が使った石器を作ってみよう」を上野原縄文の森展示館で行いました。当センターの職員が講師を務め、縄文時代の人々の知恵や工夫を石器づくりとおして、子供たちに伝えることができました。

夏休みの自由研究の参考にしていただいていた子供たちも見かけられ、14家族合計38名の参加がありました。

参加者からの感想

・石をけずるのはむずかしかったけど、自分なりに上手にできたのでうれしかったです。(小5)
・大変おもしろそうで、親の私もしてみたいかったです。



第37回企画展 新発見！かごしまの遺跡2013～県立埋蔵文化財センター発掘速報展～



9月13日(金)から上野原縄文の森展示館で、第37回企画展『新発見！かごしまの遺跡2013～県立埋蔵文化財センター発掘速報展～』を開催しています。

今回の企画展は、鹿児島県で平成24年度に発掘調査が行われた13遺跡と報告書を刊行した7遺跡の中から最新の情報を紹介しています。

天神段遺跡で出土した西日本最古の「石剣」^{せつけん}、巨大地震の液状化現象に伴う噴砂跡の剥ぎ取り資料^{せつせん}、連穴土坑に埋められた土器をそのまま再現した実体模型や天城町の戸森の線刻画など注目された資料を展示しています。

9月28日(土)には、「奄美諸島における最新の発掘調査成果」という演題で、県立埋蔵文化財センターの堂込秀人調査課長が講師を務め、第1回企画展講演会を実施しました。多くの聴講者が来場され、鹿児島県内でも謎の多い奄美諸島の最新の発掘成果に感嘆されているようでした。

期間は、12月1日(日)までです。次回の講演会も、多くの方々に御来場いただけますよう内容を充実させてお待ちしております。



第1回 企画展講演会

第2回企画展講演会のお知らせ

日時：平成25年11月16日(土) 13:30～

演題：「速報！天神段遺跡発掘調査のあゆみ」「いのりを捧げた水辺の祭祀」

講師：(公財)埋蔵文化財調査センター 文化財専門員 平木場 秀男氏、関 明恵氏

かごしま遺跡フォーラム2013

鹿児島県立埋蔵文化財センターは昨年で開所20周年となり、11月に『遺跡から見えるかごしまの歴史と文化』と題して記念フォーラムを開催しました。

今年度は、『北と南の縄文文化』というテーマで、東北と鹿児島の縄文時代の遺跡の概要や特徴を紹介します。

また、東日本大震災復興支援の現状を本県からの派遣職員が報告します。多くの県民の皆様の参加をお待ちしております。

日時：平成25年10月26日(土) 13:30～16:30

場所：鹿児島県立図書館 大研修室

参加対象：一般(事前申込不要、参加費無料)



当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会 (<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp/>) からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック

埋文だより 第62号

発行日 平成25年10月23日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp